

脳卒中医療連携

No.1

現在、医療はさまざまな疾患の段階ごとに医療機能が分化し、いくつかの医療機関が連携して治療にあたっています。そうした連携を地域の医療機関が協力して行うことで、より質の高い切れ目のない医療を住民が安心して受けられることとなります。前橋協立病院は、2007年より前橋赤十字病院を基幹とする脳卒中医療連携パスの作成に参加しました。翌2008年には策定された第6次群馬県保健医療計画で脳卒中の医療連携体制の目指すべき方向が出されました。本シリーズでは、その地域連携についてご紹介いたします。

次回からは前橋赤十字病院脳神経外科部長朝倉健先生による脳卒中に関する連載を予定しており、今回はその中での前橋協立病院の役割についてご紹介いたします。

地域連携クリニックパスにおける前橋協立病院の役割



回復期リハビリテーション病棟

看護師長 井田 早苗

「前橋日赤脳卒中医療連携の会」発足

地域の脳卒中の患者さんのリハビリを積極的に行い、総合的に医療提供しているという方針のもと2004年6月に当院に回復期リハビリ病棟が開設され今年で7年が経ちました。おもな対象疾患は、脳卒中と整形的疾患が約半数づつと少数の急性期治療後のいわゆる廃用症候群の方となっています。当初は、地域の中でなかなか認知されていませんでしたが、「患者様もご家族もそしてわたしたちもほっとで



専任医の内川医師による回診



毎月定例のお楽しみレクリエーション

より入院機能が低下すれば当院への影響も少なくはありません。そこで、限られた医療資源を有効活用するためには急性期病院、リハビリ病院が得意分野を生かして良質な医療を有効活用する脳卒中地域連携体制を構築する必要があります。2007年2月に前橋赤十字病院を中心として『前橋日赤脳卒中医療連携の会』が発足し、群馬県のモデル事業に指定されました。2008年4月からクリニックパスが運用されたことで、患者さんが必要な情報とともにスムーズに急性期病院からリハビリ病院へ転院でき、お互いに顔の見える連携関係を構築することが出来るようになりました。それにより、連携医療機関同士で統一した書類を使用し情報交換が行え、事務作業の短縮が図れ、同時

に複数の病院・施設への依頼が可能となり、転院・入所待ちという状態が幾分緩和されてきています。

他の医療機関との信頼関係強まる

発足当初、前橋赤十字病院との連携リハビリ病院は11施設で、その中から6人の「世話人」が選抜され、会の運営の中心となり尽力していただきましたが、6人のうち2名が当院から選ばれました。また、当初最も多くの患者さんを受け入れていた当院の回復期リハビリ病棟のデータをもとにパスのコース分類（重症度によって3つのコースに分類）が決定しました。また、バリアンスシート（リハビリの促進・阻害要因を分析する為の書類）作成時も当院で作成考案した様式がたたき台となり現在使用されて

いる用紙の原型となっています。連携の会が発足する以前から連携リハビリ病院の中では当院だけが紹介元の医療機関へ患者さんの回復状況などを記入したご報告を他職種チームで作成し送っていました。急性期病院からの信頼を高めることにながったことを感じ、3カ月毎の会議を重ねていくうちに、他の医療機関との信頼関係もさらに強まっていたことを実感できました。

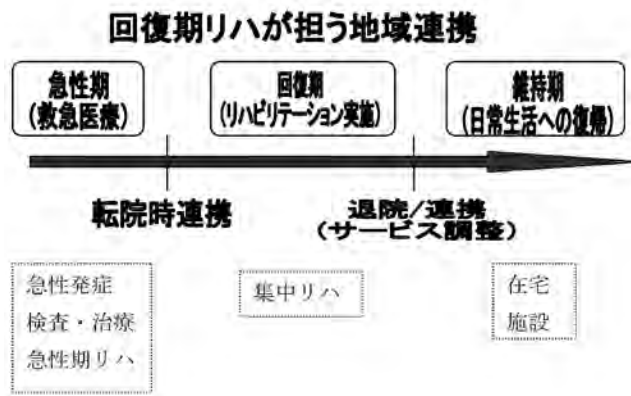
県の脳卒中治療における地域づくり構築へ

現在は、前橋地域の連携から、さらに「群馬県脳卒中地域連携クリニックパス」へと県内全域での連携に発展し、連携リハビリ病院は16施設となり、200人近い多職種で構成される参加者で会議の会場は一杯になり

ます。そして、今までは急性期病院⇄リハビリ病院の連携だけでしたが、2011年4月からは、急性期⇄リハビリ病院⇄老人保健施設へと維持期の受け皿である施設との連携の輪が広がってきています。維持期連携についても当院は基幹的立場として会の企画運営に携わってきました。また、更に今後地域の開業医との連携が広がりがつつあり、群馬県の脳卒中治療における連携（地域づくり）を構築すべく準備が進んでいるところです。

在宅医療やサービス充実、リハビリもいよいよ当院選択

この脳卒中地域連携パスを介して昨年4月から今年3月までの1年間で前橋赤十字病院からは連携リハビリ病院へ160名の患者さんが転



院され、そのうちの44名が当院へ転院され、群馬大学医学部付属病院からは45名の患者さんが転院され、そのうち2名が当院へ転院されています。転院して来られた患者さんやご家族に当院を選ばれた理由を伺うと、家から近いからという方も確かにいらつしゃいます。在宅医療やサービスが充実していて安心できるからとか、協立のリハビリはいいらしいという噂を聞いて来たなど期待を抱いて当院を選択して来られていることが感じられます。前橋赤十字病院から転院してこられた患者さんの約半数は、群馬中央医療生協の組合に未加入の方ですが、当院の医療や職員の対応に触れほとんどの方が入院中に組合の趣旨に賛同し加入して頂きます。

今後地域の方々や他の医療機関の期待にこたえられるような病棟を指してさらにチーム一丸となって頑張っていくと思えます。

***地域連携クリニックパスとは**
急性期・回復期・維持期の医療機関や施設がチームを組み、共通の診療計画書に基づいて切れ目のない継続した医療や介護を提供するためのシステム。